

図書紹介

多国語対象海洋科学用語集

Lexiques Polyglottes d'océanographie

高野健三 1993. 日・英・仏 海洋科学用語集. Lexique trilingue d'océanologie: français-japonais-anglais. 海漁協(資) 131号. 東京, (財)海外漁業協力財団. iv+300 p.

日仏海洋学会員の高野さん(筑波大学名誉教授)の長年の努力がようやく実って最近表記のような用語集が刊行された。仏語で約6900項目、英語で約6600項目を収録している。本体は仏-英-日語配列(117ページ)、日-英-仏語配列(112ページ)、英語索引(42ページ)の3部構成になっている。日本語はヘボン式ローマ字表記でのアルファベット順に配列されている。

本書での用語の採録は、仏日海洋学会長(当時)のBILLARDさんの序文によると、本書の親本というべき日仏海洋学会編「日・英・仏語対照海洋・水産学用語辞典」(1975)とLUCASさんが日本での研修成果を修士課程論文としてまとめた「仏・日・英語対照」水産増養殖用語集(1978)を主な底本とし、それに加えて本書企画のための日仏華三国の協力者による採録語をも収めている。

高野さんが「まえがき」で言及しているように、本書は日仏海洋学会の企てた1975年版用語辞典(上記)の増補改訂作業を発端として生まれた。日仏海洋学会は初め機関誌「うみ」を母体にして1965年以来用語集編集の企画を育ててきて、上記のように1975年には成書としても刊行したが、高野さんが多くの協力者の努力を結集して、この学会の業績としてこのように充実した用語集にまで仕上げられたことは、同じ会員として感謝するとともに誠に同慶に耐えない。詳しく見れば、例えば用語の採録には、専門分野によって今後取捨が問題にされることもあろうが、高野さんも指摘するように、これからは本書を底本とすれば改訂増補も容易というものである。

なお巻末の付録として元素名(仏-英-日語, 日-英-仏語両配列)とともに、海洋科学(水産学を含む)に関連する国際機関・組織名(仏-英-日語, 日-英-仏語両配列)、日本の機関・組織名(仏-英-日語, 日-英-仏語両配列)、フランスの機関・組織名(仏-日語, 日-仏語両配列、一部英語併記)が付録されている。特に国際機関やフランスの機関については常用されるアクロニー

ム(頭字語)の仏・英語索引としての役割をも果たしていて、この一覧表は読者にとって便利であろう。

本書の出版を好機に、近年の関連図書を二三紹介しておこう。一つは本書の発行所海外漁業協力財団が編集した五ヶ国語対照水産用語辞典(1991, 和文表題なし)で、日・英・西・仏・インドネシア語を配し、約3700項目のフランス語を採録している。本体はヘボン式ローマ字表記日本語のアルファベット順配列である。これに他の四ヶ国語索引が付く。ただしこの索引では、日本語に複数の対応外語が採択されている場合、各国語共通の問題として、第2以下の対応語は第1対応語に伴った形でしか項目化されていないのは不便である。増刷の場合はぜひ改訂してほしい。しかし日本語を含む多国語対照用語集として水産関係者にとって有益な一本であることは間違いない。日本語を含まないが、新刊の類書としてはNEGLEDLY(1990)のエルゼヴィア版英・仏・西・独・ラテン(生物種名)語対照水産用語辞典, MARX(1991)のエルゼヴィア版英・仏・西・独・伊・ラテン(生物種名)語対照水産増養殖用語辞典も同様に必携書といえよう。

高野本と採録対照分野が似たフランス書という点で、PIBOUBESとPERCIER(1989)の仏英独西語対照海洋辞典もここで紹介するに値しよう。本書はフランス語圏を網羅する語学組織「国際仏語評議会(CILF)」が同評議会刊行の海洋学用語集(1976)の増補版として発行した。対照分野は海洋一般項目のほか広く法学、歴史学、物理学、化学、生物学、地理学、地学、気象学、工学、建築学、水路学、航海術、漁業、海運業、石油採掘業、海洋技術、潜水術に及んでいる。なお採録語の仏-露語対照作業も終わっているが、本書に含まれるに至らず、その刊行は今後のこととなった。ここに挙げた類書群のなかでの本書の特色の一つは、一般語学辞書のように用語説明を参照できることである。要所には採録語の用例が添えられているのも有益である。編集者のPIBOUBESさんはIFREMER(国立海洋開発研究所)ブレスト支所の資

料保管出版室長であり、PERCIERさんはかつて訪日の経験のある漁業学者で、先年までピアリッツ科学研究センター所長を勤められた。

高野本ではIFREMERについて英語表記だけで仏語非省略表記が脱落してしまった。IFREMERはInstitut français de Recherche pour l'Exploitation de la Merのアクロニムである。なおこの機関は1984年6月にそれまでのCentre national pour l'Exploitation des Océans (CNEXO)とInstitut scientifique et technique des Pêches maritimes (ISTPM)とを統合して設立されて今日に至っている。蛇足ながら元の両機関も高野本で採録されている。

参 照 文 献

- LUCAS, Nadine (1978): Lexique français-japonais-anglais d'aquaculture, sous la direction de M. Pr. René Sieffert. Thèse présenté de la Sorbonne (Paris III), Insitut national des Langues et Civilisations orientales, pour l'obtention du doctorat de troisième cycle en études de l'Asie orientale. 2 tomes. 1017 p.
- MARX, Cheryl E. (1991): Elsevier's dictionary of aquaculture. Amsterdam, Elsevier. vii+454 p.
- NEGEDLY, Robert (1990): Elsevier's dictionary of fishery, processing, fish and shellfish names of the world. Amsterdam, Elsevier. viii+623 p.
- Overseas Fishery Cooperation Foundation (OFCF) (1991): Dictionary of fisheries terms /Diccionario de terminos pesqueros/Dictionnaire des termes des pêches/Kumus untuk kata² perikanan. Tokyo, OFCF. 392 p.
- PIBOUBÈS, Raoul, Albert PERCIER (1989): Dictionnaire de l'océan. Paris, Conseil international de la Langue française. xiv+761 p.
- 佐々木忠義外 (1975): 日・英・仏語対照 海洋・水産学用語辞典. 東京, オーシャン・エージ社. xvi+241 p. [絶版]

(高木和徳)